

プロジェクト 「にんにく」で儲かる産地づくり

目 標

- ・国内産シェア R4：66% → R10：66%
- ・単収（出荷量） 過去5か年平均(H30～R4)：693kg/10a → R5～9年産平均：753kg/10a
- ・品質（A B品率） 過去5か年平均(H30～R4)：77% → R5～9年産平均：85%

挑戦する内容

- ・「青森福雪」の早期導入、普及拡大に向けた取組
- ・生産者段階の優良種苗増殖技術の重点指導
- ・イモグサレセンチュウの被害防止技術の確立
- ・労働力不足に対応した技術開発の推進

関係者の声
=対話

- ・高齢化が進み労働力の確保が難しくなっており、作業の省力化を図りたい（生産者）
- ・高品質のにんにくを安定出荷してほしい（市場）
- ・割れが少ない品質の良いのにんにくを要望（農協）
- ・高齢化や労働力不足により産地の維持が難しい（農協）
- ・優良種苗の安定生産（種苗メーカー）

役割分担

- ・優良種苗生産技術プロジェクトチーム：優良種苗増殖技術の普及に向けた取組
- ・青森県にんにく新品種「青森福雪」普及推進協議会：新品種の技術的な課題や普及拡大に向けた検討
- ・全農、農協：優良種苗増殖、研修開催協力、新品種栽培技術実証ほの設置、現地指導
- ・産技センター：労働力分散、省力化に向けた試験、新品種の栽培技術の確立
- ・種苗メーカー：優良種苗増殖
- ・県：研修開催、現地指導

変革後の姿

- ・県産にんにくのトップブランド地位を将来にわたって堅持
- ・労働力の分散、省力作業の導入により、適期収穫による品質向上と面積の維持
- ・生産者段階の優良種苗増殖技術が普及し、高品質安定生産により販売単収が向上
- ・肥大や品質に優れる新品種の早期導入によるA品率の向上

令和6年度計画

挑戦する内容

- 「青森福雪」の早期導入、普及拡大に向けた取組
 - ・生産技術確立試験の実施（野菜研）
 - ・「青森福雪」栽培技術実証ほの設置（9か所）
 - ・青森県にんにく新品種「青森福雪」普及推進協議会の開催（2回）
 - ・種苗増殖期間短縮に向けた培養試験の実施（民間企業）
- 生産者段階の優良種苗増殖技術の重点指導
 - ・生産者段階の優良種苗増殖技術の普及に向けた指導拠点ほ設置（野菜研）
 - ・指導者、生産者に対する研修会の開催（指導者向け2回、生産者向け1回）
- イモグサレセンチュウの被害防止技術の確立
 - ・「イモセン検出方法の改良」、「イモセン被害を抑制する薬剤処理時期の検討」に向けた実用化試験の実施（野菜研）
- 労働力不足に対応した技術開発の推進
 - ・労働力を分散する技術の開発（野菜研）
 - ・労働力不足に対応した省力乾燥体系の現地事例調査（野菜研）
 - ・ドローンの多面的利用方法の開発（IT企業、野菜研）



新品種「青森福雪」



優良種苗研修会

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（8月、1月）
- ・青森県にんにく新品種「青森福雪」普及推進協議会を開催し、「青森福雪」の普及に向けた取組の進捗状況を把握するとともに、全農、農協、市場関係者からの意見を取組内容に反映（5月、10月）
- ・青森県にんにく種苗生産指導プロジェクトチーム会議を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、全農、農協等関係者からの意見を指導内容に反映（4月、2月）